

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「水」

水について考える 3、4、5歳児

<テーマの設定理由>

- ・絵本「みずとはなんじゃ」を見ながら、水について話す。
 - * 「水を使うのはどんなとき？」という保育士の質問に子どもたちからでてくる水を使う場面について共有し、水のイメージが広がっていった。
- ・子どもたちの「みず」のイメージは、「おふろ」「プール」「手を洗う」「お茶碗を洗う」「野菜とかを洗う」「トイレで流す」「お花にお水をあげる」など。

2. 活動スケジュール

幼児縦割りクラスひまわり組（3歳児…8名、4歳児…9名、5歳児…10名 計27名）

- ・絵本「みずとはなんじゃ」をみながら「水」について考える
- ・「浮く」ものと「沈む」ものがあることを知る

◆令和6年12月27日（金）

「うく？しずむ？クイズ」① 保育園にある物が浮くか沈むかを子どもたちと考える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・深くて透明な水を入れる容器（衣装ケース）
- ・バスタオル、フェイスタオル、雑巾（数枚ずつ）
- ・井形ブロック、ミニカー、積み木、ペットボトル（空）、ペットボトル（未開封）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・絵本「みずとはなんじゃ」を見ながら、みずについて考える
- ・クイズをしながらか、おもちゃなど、園内にある物が「浮く」か「沈む」かを子どもたちが予想し、結果を見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◆令和6年12月27日（金） 「うく？しずむ？クイズ」①園にあるもの編

	【子どもたちの予想（多数）】		【結果】
① 井形ブロック	浮く	沈む ←浮く・沈むほぼ同数	浮く
② ミニカー	浮く	沈む	沈む
③ 積み木	浮く	沈む	浮く
④ ペットボトル（空）	浮く	沈む	浮く
⑤ ペットボトル（未開封）	浮く	沈む	浮く

* 浮いた井形ブロックと同じ形で色を変え、浮くか沈むかを尋ねると、3歳児は「沈む!」と答えた児が多かった。4、5歳児は「色が違うだけだから浮く」が多数。

* ペットボトルは、少しの空気が入っていることでキャップ付近だけ水面に出る。

★とても楽しいクイズの時間となり「今度は違うものでやってみよう!」と終わる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの生活の中にたくさんある「水」について、楽しさを感じながら「考える」ことや

「気づく」ことで更に興味を広げ、探求心を広げていきたいと考えた。

1回目は園にある身近なものをクイズにした。

何問か行う中で正解率が高くなり、4歳児からの「プラスチックだから浮くんだよ!軽いから」の言葉に、他の児も「プラスチック知ってる。お肉とか入っているのでしょ?」「お船作ったことあるよ」など、知っていること、経験したことを話していた。

お正月休み中のそれぞれの子どもたちの興味や関心、発見につながって欲しいという思いから「新しくお水のあるところを見つけたらおしえてね」と伝え、終了した。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜拍会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水
ゆず湯に入ろう 冬至のゆず湯を体験しよう (3・4・5歳児)

<テーマの設定理由>

- ・冬至の行事について描かれた絵本を見たり、保育者の話を聞き、子どもたちが冬至について興味を持ち、友だちや保育者と話していた。
- ・職員の自宅で柚子がたくさん採れたこともあり、子ども達と相談してゆず湯を体験してみようと話した

2. 活動スケジュール

令和7年12月27日 (金) 12:30~13:00
3.4.5歳児 ひまわり組 (3歳児…10名、4歳児…10名、5歳児…10名 計30名)
・事前に保護者にゆず湯を行うことを知らせ、アレルギーの有無などを確認する。
・年末の休みに向けて、みんなが元気に過ごせるようにと願いを込めて28日に行った。
・冬至の行事やゆず湯の由来などを改めて話し、給食を食べ終え、午睡までゆっくりしている時間に、ゆず湯の足湯を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・プラスチック製半透明の箱 6個
- ・幼児用いす 6脚
- ・お湯
- ・柚子 30個程度
- ・足ふき、床拭き用タオル 10枚程度
- ・お湯を運びやすいよう、箱をシャワー室近くの保育室内に用意する
- ・柚子は小さく穴を開け、香りを感じられるようにする
- ・床にビニールテープを貼り、子どもたちが待つ場所を作る

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ゆず湯の由来などを話すと興味深く聞いたり体験したことを知らせてくれる子もいた。ゆず湯の足湯ができる場所を用意し、5～6人ずつ順番に足湯に入れることを伝え、入りたい子は順番に待っているよう話した。ゆず湯の準備ができると、入ることを楽しみにして順番を待っていた。椅子に座り、お湯の入った箱に足を入れて、足湯の温かさや、柚子の香りを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・保育士が準備をしている間、興味を持った子どもが近くに来て「なにやってるの？」「なんかいいにおいがする」と話していた。
- ・柚子が浮かんでいる様子を見て「見たことない、やってみたい」「お家で入ったよ」など友だちと話し合う姿があった。
- ・ゆず湯に優しく足を入れるよう話すと、そっと足をつけて「あったかい、たのしい」と嬉しそうに話す。
- ・保育士が「おふろやさんだよ、入りたい人は並んでください」と話すと、入りたくなった子どもたちが順番に線に並んで待っていた。
- ・足湯に入っていた子が「柚子の匂いするかな」と話していたため、保育士が「顔を近づけて匂いをかいでみてもいいよ」と伝えると、顔を足湯に近づけて、友だちと柚子の香りを確かめ合っていた。
- ・終了の時間をタイマーで知らせると、足湯から出てタオルで足を拭き、友だちと「あったかかったね」「楽しかったね」と話し合っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・給食を順次食べ終えた、午睡前の時間帯に行うことで、子どもたちも落ち着いて参加できたことが良かった。足が温まり、スムーズに入眠できた子どもが多かったように感じる。
- ・子ども達からも「楽しかった」と声が上がリ、保護者の方に伝えた際にも「家では出来なかったので、嬉しいです。ありがとうございます」と言っていた。行事の由来を知るだけでなく体験することができ、足湯の心地よさ、柚子の香りを実際に知ることが出来て良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「水」

小麦粉と水 粉に水を入れると・・・
小麦粉粘土で遊ぼう

<テーマの設定理由>

- ・子どもたちは、ままごと遊びの中でごっこ遊びを楽しみ、友だち同士でのやりとりが盛んにおこなわれている
- ・パン屋さんのように、小麦粉に水を加え、こねてみる。
- ・粉の感触と、水を入れることでサラサラの粉が粘土のようになっていくことを体験する

2. 活動スケジュール

令和6年12月27日（金）

2歳児クラス つくし組 2歳児…10名

- ・小麦粉をボウルに入れ、粉の感触を知る
- ・少しずつ水を入れ混ぜていく
- ・手にベタベタ付着する感覚を知る
- ・サラダオイル・塩・小麦粉を足して混ぜ合わせる
- ・大きな塊を一人分ずつに取り分け、小麦粉粘土で遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・小麦粉 300g
- ・水 250cc
- ・サラダ油 少々
- ・塩 少々
- ・ボウル 1個
- ・バッド 1個
- ・テーブル 2台

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・小麦粉のサラサラした感触と水を加え捏ねた時の手に付着する感触を知る
- ・小麦粉と水の量を足しながら捏ねた段階での形状の違いについて気付く
- ・一人分ずつ分け、それぞれが好きなように形にすることを楽しめるようにする

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

小麦粉を初めて見る子も多く、イメージがないため、どのようなものか想像できていない様子であった。

粉のサラサラした感触から、水を加え混ぜることで変化し、ベタベタとして手にたくさんつくことで、徐々に表情が硬くなる姿や指先で取ろうとする姿がみられた。

粉と水の量を加減して粘土になってくると、「さっきと、ちがってきた！」

「てがべたべたしないね！」と、感触の違いに気付き、言葉にできる児が数名いた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日々の活動の中で、手が汚れることを苦手とする子がいるが、粉の状態ではサラサラしているため触ることが出来た。水を加えた小麦粉が手にべっとりとついていて友だちの様子を見て消極的になる子もいた。手についた小麦粉に、サラサラした粉をつけてこすることで少し取れるようになることに気づき、「みて！とれたよ！」と、友だちと見せあう姿も見られた。小麦粉粘土が完成すると、それぞれが思い思いの形にして遊び、小麦粉粘土ならではの感触を楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「水」

野菜を洗ってみよう 0、1歳児

<テーマの設定理由>

子どもたちはいつも手を洗うことを楽しんでいる。

野菜がお風呂に入る絵本も楽しんで見ていることから、野菜を洗ってみることにした。

2. 活動スケジュール

令和7年1月15日（火）

0.1歳児クラス ちゅーりっぷ組（0歳児…3名、1歳児…8名 計11名）

- ・タライに水（ぬるま湯）を入れ、野菜を洗う
- ・タライの水は毎回交換し、清潔な水で2～3名ずつ行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・タライ 2個
- ・野菜（大根、人参、さつまいも、じゃがいも、かぼちゃ）
- ・バスタオル、フェイスタオル 数枚ずつ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・タライの周りに2～3名座り、野菜を洗う
子どもたちは、はじめは水に手を入れることに戸惑う様子が見られたが、徐々に嬉しそうに、野菜を触り、洗う仕草も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

はじめは戸惑っている姿も見られたが、保育士の「やさいさんをお風呂にに入れてきれいにしてあげようね」の言葉に、野菜を持ち、洗いはじめる。「ママみたい」と言いながら嬉しそうに野菜を洗う姿も見られた。

高月齢児は、しばらく洗うと野菜を取り替え、形の違いを楽しんでいた。

別の児は、野菜が手から滑り落ち、水が跳ねたことで、野菜を水に落とす楽しさに変わっていった。

野菜の中でもじゃがいもが一番の人気であった
(丸い形、手で握れる大きさに楽しさが増すのだろうか)
後日、保護者の方から「最近、野菜と一緒に洗ったり、お手伝いをしたいということが増えました」とお話があり、野菜への親しみと、お手伝いへの気持ちに繋がっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水の中で野菜を触るととても嬉しそうな表情が見られた。母親の真似をしているような嬉しさが見受けられた。小さな手で野菜を大事に洗う様子が見られた。

夏のタライでの水あそびや、家庭でのお風呂の経験からか、最後にその場を立つ際に、タライの淵を持ち上げ、水を空にしようとする仕草が見られた。実際に水をあけてしまうハプニングもあった。小さな子どもたちの生活の中にも水はたくさんあり、子どもたちにとって水は楽しいものであることがわかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「水」 水について考える 3、4、5歳

<テーマの設定理由>

12月27日（金）に行った活動からの継続 ・絵本「みずとはなんじゃ」を見ながら、水について話す。 前回、水を使う場面について子どもたちのイメージを共有し、お正月休み中に、新しく「水」を見つけたらみんなにお話しようと伝えていた。 ・「水循環」は難しい内容であるが、環境について考えていくきっかけとしても取り入れてみたいと思った

2. 活動スケジュール

令和7年1月9日(木) 幼児縦割りクラス ひまわり組（3歳児…10名、4歳児…12名、5歳児…12名 計34名） ・前回 12月27日（金） 「うく？しずむ？クイズ！」①園にあるもの編（保育園にあるものが浮くか沈むかを子どもたちと考えた） 今回は、子どもたちと「うく？しずむ？クイズ！」②野菜編 を行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・深さのある透明容器（衣装ケース） ・野菜 ①大根 ②トマト ③きゅうり ④ごぼう ⑤キャベツ ⑥れんこん ⑦にんじん ⑧はくさい ⑨じゃがいも（大・小） ⑩かぼちゃ ⑪長ネギ
--

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・絵本「みずとはなんじゃ」を見ながら、水について考える
- ・クイズをしながら、野菜が「浮く」か「沈む」か予想し、結果を見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

令和7年1月9日（木）

お正月休みにみつけた「みず」について、子どもたちは「氷をみつけて触ったよ」「川に行った。水はずっと流れてたよ」など、それぞれの経験を話す。

保育者「川の水はどこから流れてくるのかな？」 子ども「やま！」

保育者「どうして山から流れてくるのかな？」 子ども「・・・」

保育者「山にはなんでお水があるのだろう？」 子ども「あめ！木に雨が降るから」

* 雨が降り、地面が濡れることで少しずつ水が集まり川になる話や、土の中にある水で木が大きくなる話をする

* 絵本「みずとはなんじゃ」を見ながら、水循環について話す

雨が降る⇒川になって流れていく⇒海に行く⇒蒸発する⇒雲になる⇒雨が降る…
蒸発する…沸騰したポットのお湯から上がる湯気が消えていく様子をみんなで観察

「うく？しずむ？クイズ」②野菜編

①大根 ②トマト ③きゅうり ④キャベツ ⑤れんこん

⑥人参 ⑦白菜 ⑧じゃがいも ⑨かぼちゃ ⑩長ネギ

★予想と異なる結果も多く、水に入れる瞬間の子どもたちのわくわくが伝わってきた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

前回、水について子どもたちと考えたことや気づいたことを確認しながら、新たに見つけた「みず」についてみんなで話をし、子どもたちからは多くの意見がでてきた。

今回2回目の「うく？しずむ？クイズ」では、野菜を用意し、クイズを行った。

普段は静かに過ごすことの多い児が、大きな声で結果を予想する姿や、友達と正解を喜び合う姿が見られた。

水循環は難しい内容であるが、環境について考えていくきっかけとしても取り入れた。

「お休みの間に見たよ」と子どもからでてきた「氷」についても、子どもたちと氷作りの活動に繋げていきたい。

子どもたちの興味や言葉を基に、わくわくを広げていける園内の柔軟な協力体制についても話し合うことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

氷をつくってみよう 3, 4, 5歳児

<テーマの設定理由>

散歩先の公園で霜柱を見つけた子がいた。みんなで霜柱を踏んだり、持ってみるなど興味をもっていた。寒い日の夜中に地面に霜柱ができることを話すと興味を示した。自分たちでも氷作りをしてみるようになった。

2. 活動スケジュール

天気予報の気温を調べる。

- ・この日が寒いから氷が作れそうという日を決める。
- ・子どもたちそれぞれが、水を入れる容器、容器を置く場所を考える。
- ・実際に置き、翌日凍っているか確かめる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

天気予報と気温を大きな紙に書き出し部屋に貼る。

砂場用のおもちゃなど容器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

どうしたら氷が出来るか意見を出し合った。「さむいところがいいよね」とまとめ、次にどこが寒いか考え、園舎沿いの陰っているところに置くことにした。カップに水を少量入れた。翌日、凍ってはいなかった。とても残念がりもう一度挑戦することにした。次は園庭の中央に置こうとなる。鬼ごっこやかけっこをあまりしない園庭中央は子どもたちにとって”寒い場所”とのことだった。翌日、凍っている物もあり手に取って喜んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「えんていのどこにおく?」「さむいところがよいよね」と話しながら置く場所をよく考えていた。1回失敗すると「あのばしょはやめておこう」「いつもえんていであそぶときまんながさむいよね」「そうだね!」と決めていた。翌日「できてるかなー?」と楽しみにして見に行った。見ると「できてたー!!」と喜び手にした。いくつか凍っていない物もあり、「なにがちがったのかな」と「どうしてだろう」と考える様子があった。

(写真で青付箋がついているものが凍っていたもの)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水がなぜ固まるのか…から考えていったとき、まず家の冷凍庫を思い浮かべていた。「れいとうこでおりができてるよ」「れいとうこみたいところがいいよね」「れいとうこのなかってさむいよね」と子どもたちは自分が知っていることから繋げて考えていた。またうまくいかずなぜだろう?と考え、置き場所を変えた時も自分の経験を基に考えられる子どもたちの力を感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

試験管を使った色水遊びを楽しもう 5歳児

<テーマの設定理由>

子どもたちは日頃のえのぐを使った活動の中で「濃かった」「ちょっと薄い」など、色の濃淡に気づきながら絵の具を使っている。
試験管という子どもたちにとって特別な道具を使い、自分で絵の具に加える水の量で色が変わることを経験してみたい。

2. 活動スケジュール

令和7年2月20日(木) 10:00~11:30 5歳児 13名 (2グループに分けて行った)

- ・試験管の絵の具に水を入れることで色が変化する様子を見る
- ・子ども一人ひとりが試験管セットを使い、同色同量の絵の具が入っている5本の試験管にスポイトで水を入れ、色の変化をみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・試験管セット (試験管:5本、プラスチック製) 13セット
- ・スポイト 20個
- ・水をいれたポット 13個
- ・絵の具 (赤、黄、青)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育士が、同じ色の絵の具が同量ずつ入った5本試験管に、色の濃淡が出るように量を変え、水を入れていく。子どもたちからは「色が違うね」「きれいだね」など。保育士の「なんで色が違うのかな」の質問に、「魔法みたい!」「みずが少ないのと、多いので違うんだよ!」と、それぞれ感じたこと、思ったことを答える。みんなもやってみよう!と、それぞれに道具を渡す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちに試験管セットを紹介すると

「それ知ってる!学校でやるんだよね!」「実験でしょ!?!」
スポイトを見せると、子どもたちのわくわくは更に高まった。



はじめは、水の量での濃淡を見るために、全員が同じ色、同じ絵の具の量からスタートした。

子どもたちはそれぞれスポイトで試験管に水を入れていく。

- ・色の違いを見るために、試験管ごとに水の量を変えている子
- ・慎重に、少しずつ水を入れているため、あまり色が変わらない子
- ・水を入れることを楽しみ、すべての試験管に水をいっぱい入れ、5本すべて満タンの水で、色はすべて同じ色になっている子



水の入れ方、楽しみ方にそれぞれの違いが見られた。



その後は、他の色も自分で入れながら、色の変化や色の混ざり方を真剣に、また、不思議そうに見ていた。言葉での表現だけでなく、子どもたちの表情から、たくさんを感じている様子がうかがえた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

試験管という、子どもたちにとって特別な道具を使った活動では、子どもたちの高まる期待感が伝わってきた。活動のはじめに道具の使い方を説明したものの、余計な注意は不要と感じるほど、子どもたちは普段とは異なる輝いた目をしていた。活動中には水をこぼすこともなく、集中している姿はまるで「実験」を行う小さな博士のようであった。水の量を調節する過程では、指先の使い方や手の力加減など、手と目を使った動作が求められた。この活動は、子どもたちの成長を促す良い機会であり、今後もぜひ取り入れていきたいと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜泊会

1. 活動のテーマ

水
水が動くことにより、不思議な模様ができる様子を見てみよう（3・4・5歳児）

<テーマの設定理由>

- ・以前、絵の具を使った後に保育士が水道で絵の具を洗う様子を子どもたちが見た時に、絵の具の色が水に流れていく様子や、色が混ざり合う様子を楽しんでいた。
- ・卒園した子どもが、当時作ったマーブルングの紙が残っており、保育士が整理している時に見ていた子どもが「おひなさまの服の模様みたいだね」「作ってみたい」と話していた。

2. 活動スケジュール

令和7年2月20日（木）～2月28日（金）
ひまわり組（3歳児…11名、4歳児…13名、5歳児…13名 計37名）
子どもたちがマーブルングを行う前に、保育士がプラスチック製の箱に水を入れて、かき混ぜるところを子どもたちに見てもらい、水の流れが色で見えることや模様ができることを伝える。保育士が水が入った箱にマーブルング液を垂らして、かき混ぜ、画用紙に模様を写し取るという一連の流れを子どもたちにもみてもらった。その後、子どもたちとマーブルングを行い、マーブルングでできた画用紙を使ってひなまつり制作を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・プラスチック製半透明の箱 2個
- ・マーブルング液 1個（赤、橙、黄の3色と青、緑、黒3色を分けて置く）
- ・画用紙 1人2枚
- ・割りばし 2本
- ・箱の下に敷く、白い紙や、タオル（マーブルング液の模様を見やすくするため）
- ・マーブルングを行った水を取り替えやすいよう水道の近くで行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・保育士が、水を入れた箱の中に、子どもたちがマープリング液を落とす。3色を5滴程度落とすと、模様がきれいに見えることを伝え、色の選定や各色の回数は子どもたちが決める。割りばしを使って、水をかき混ぜたり、画用紙をマープリング液の上に乗せて模様を写し取る工程も子どもが行った。
- ・一人ずつ順番に行い、模様がきれいに見えるよう、その都度水を交換している。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・保育士がマープリングを行う様子を見て「やってみたい!」と期待に満ちた声が上がっていた。
- ・一人ずつ順番に行っていると、順番を待っている子どもが、興味や期待を持ち、近くで見守っていることもあった。
- ・マープリング液を水に落とした時にできる模様を見て「ぶどうみたい」「めんたまじゃない?」「パンダみたい」と模様からイメージするものを話していた。
- ・マープリング液をかき混ぜた際、きれいな模様になったかな?と保育士が声をかけると、模様を見て満足した表情で「画用紙にうつしたい」と保育士に伝え、紙をマープリング液の上に置いていた。
- ・かき混ぜすぎて、模様が見えなくなってしまった子は「どうしてかな、もう一回やりたい」と話す。保育士が水の混ぜ方について、ゆっくり混ぜるとよいかもと話すと、力加減や混ぜる速さを調節しながら取り組んでいた。
- ・近くで見ていた友だちと一緒に、自分で画用紙に移った模様を見て「きれいな模様ができたと喜んでいた。
- ・マープリングした画用紙を用いてひなまつり製作を行い、ひなまつりの日にあわせて家に持ち帰った。お迎え時には保護者に誇らしそうに作品を見せていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・箱の下に白い紙やバスタオルを敷くことで、混ぜた時の色が見えやすくなり、子どもたちも水が動く様子に注目できていた。水の動きをもっと大きくできる活動はないか、気候も踏まえながら、子どもたちと考えていきたい。
- ・「またやりたい」「もういっかいやりたい」と話す子どもが多かった。子どもたちとも作品作りについて相談しながら、マープリング液を入れる回数や色の種類を考えたり、何度も試すことができるような活動を検討していきたい。